事業区分　青少年教育に関するモデル的事業

事業名　ASO 一周チャレンジキャンプ

[主　催] 国立阿蘇青少年交流の家
[後　援] 熊本県教育委員会　阿蘇市教育委員会　南阿蘇村教育委員会
[期　日] 令和 7 年 8 月 19 日（火）～23 日（土）　【4 泊 5 日】
※事前説明会　8 月 3 日（日）
[活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家及び周辺地域
[参 加 者] 20 名（小学生 10 名、中学生 10 名）
[スタッフ] 職員 6 名、ボランティア 8 名

1　趣　旨

自然環境に恵まれた「阿蘇」の大地をフィールドとした長距離ハイキング等を通して、同じ目的をもった仲間とともに困難に挑戦し、最後までやり遂げる力を育むとともに他者への思いやりや積極性などの自立的行動習慣の育成を図る。

2　目　標

（1）実施後のアンケートで、参加者の 80%以上が「周りの友達から支えられていることを感じることができた」と回答する。
（2）実施後のアンケートで、参加者の 80%以上が「お互いに励まし合って活動に取り組むことができた」と回答する。
（3）実施後のアンケートで、参加者の 80%以上が「つらい時に力を振り絞って頑張ることができた」と回答する。

3　事業展開

(1) 活動プログラム

期日		行程（距離）	その他の活動
1 日目	8/19(火)	交流の家→阿蘇神社→国造神社（9.4km）	ナイトハイク
2 日目	8/20(水)	小嵐山駐車場→木落牧野→大観峰（9.5km）	野外調理(ｶﾚｰ) テント泊
3 日目	8/21(木)	米塚下園地→草千里→火口展望所（9.1km）	野外調理(ピザ) レクリエーション
4 日目	8/22(金)	鹿流ヶ滝展望所→立野駅→阿蘇白川駅→明神池 ※南阿蘇鉄道トロッコ列車利用（約 20km）	野外調理(BBQ) キャンプファイヤー
5 日目	8/23(土)	鍋の平キャンプ場　→　交流の家（15.0km）	

(2) 活動の様子


8/19 阿蘇市一の宮町


8/20 野外調理


8/21 阿蘇山上



8/22 トロッコ列車

4　評価、成果と課題

（1）評価

＜対象＞参加者 20 名（小学生 10 名・中学生 9 名）　　2025.8.23 全活動プログラム終了後実施

※　4:とても当てはまる　3:ある程度当てはまる　2:あまり当てはまらない　1:当てはまらない

※　中学生参加者のうち、1 名は体調不良により早退したため、アンケートに含まない。

①　**参加者の８割が周りの友達から支えられていることを感じることができたか。**

設　問	回答	4	3	2	1
周りの友達から支えられていることを感じることができたか。	割合	89.5%	10.5%	0%	0%
	人数	17 人	2 人		

・みんなが気にかけてくれたから。・疲れているときに応援してくれたり、ペースを合わせてくれたりしたから。・ペースを合わせてくれたから。・励まし合えたから。・レクや野外調理などでたくさん協力できたから。・「こうしたらいいんじゃない？」「ちょっと待とうか」などの声が聞けたから。・他の班とも、交流の家で一緒に泊まったときに協力し合えたから。

②　**参加者の８割がお互いに励まし合って活動に取り組むことができたか。**

設　問	回答	4	3	2	1
お互いに励まし合って活動に取り組むことができたか。	割合	94.7%	5.3%	0%	0%
	人数	18 人	1 人		

・他の人を気遣って待ったりしながら、みんなで進むことができたから。・笑いながら活動できたから。・班の男子が気遣ってくれて、励まし合ったり盛り上げたりして取り組めたので、すごくなじみやすかったから。・班の目標に「励まし合い」が入っていたのでよかったし、早退した仲間の分もがんばろうという声かけが多くて、いい雰囲気だったから。

③　**参加者の８割がつらい時に力を振り絞って頑張ることができたか。**

設　問	回答	4	3	2	1
つらい時に力を振り絞って頑張ることができたか。	割合	100%	0%	0%	0%
	人数	19 人			

・歩いているときに、きつい上り坂などでも歌ったりしたから。・「大丈夫？」「元気？」と声をかけてくれたから。・歌を歌いながら励ましてくれたり、友達が疲れているときに休憩を取って励ましてくれたりしたから。・みんなで歌を歌ったり、「大丈夫？」と声をかけ合ったりしたから。・話しながら歩いたから。・歩くのがつらいときにお互いに励まし合えたから。

（2）成果

○　阿蘇医療センターと事前に連携し、熱中症や感染症対策について助言を受けたことは大きな成果であった。体温チェックや声かけ、実施時間やコースの工夫により、厳しい暑さの中でも重度の体調不良者を出さず、全員が完歩できた。安全面での配慮は参加者や保護者の安心感にもつながった。

○　運営面では、食事・宿泊・救護・移動などを明確に分担し、責任をもって対応したことで進行が円滑に進んだ。4 泊 5 日への日程変更は職員の負担軽減や超過勤務時間の抑制につながり、持続的な運営に向けた基盤となった。

○　募集では、紙媒体を抑えつつホームページや SNS を活用し、幅広い層からの申込みを得た。参加経緯のデータも蓄積でき、今後の募集方針に活かせる貴重な成果となった。

（3）課題

○　宿泊調整や備品発注、経費執行など準備段階で直前対応が多く、食事発注や宿泊調整では確認不足も見られた。計画的な確認体制と情報共有の仕組みづくりが課題である。

○　実施時期が、一年の中でも利用者が多い時期であったため、担当外の所に残った職員も利用者対応に追われるなど、全体的に負担感が大きかった。年間計画全体の中で時期を調整し、円滑な実施と働きやすさの両立を図る必要がある。